

一般社団法人日本粘土学会 2019 年度第 3 回理事会議事録

日 時：令和元年 7 月 27 日（土）15:05～17:30

会 場：(株) 国際文献社パブリッシングセンター 8 階会議室

出席者：理 事(20 名)：山崎淳司、河野元治、中川昌治、佐藤 努、蛭名武雄、太田俊一、小口千明、亀島欣一、川俣 純、寒河江竹弘、鈴木憲子、鈴木正哉、高木慎介、高橋範行、手束聡子、中戸晃之、日比野俊行、森下智貴、横山信吾、渡邊雄二郎
監 事(2 名)：月村勝宏、志々目正高
理事以外の常務委員(2 名)：伊藤健一、田村堅志
事務局：川島朝子

欠席者：理事(8 名)：伊藤弘志、大川政志、大河原正文、岡田友彦、桑原義博、笹井 亮、万福裕造、牧野知之

成立確認：理事総数 28 名の過半数 14 名、出席理事 20 名で理事会の開催は成立

会議に先立ち、山崎会長より年度は西暦の 2019 年、日時は和号の令和元年で統一するとの説明があった。

審議事項

1. 2019 年度事業中間報告（資料 1）

各担当委員から資料を基に報告があった。蛭名 Clay Science 編集委員長より資料の訂正があり「Vol. 22, No. 3, No. 4」を追加した。鈴木参考粘土試料委員長から関白のカオリナイトの残量が 6 本なので、近々ロットを b から c に変更するとの説明があった。学協会長会議に出席をした佐藤常務委員長より、法人化した学協会に対する監査が始まっており、かなり厳しく行われているとの報告があった。本会は問題なく運営しているが一層気を引き締めなくてはならないとの見解が示された。

以上、審議の上承認された。

2. 2019 年度会計中間報告（資料 2）

伊藤会計委員より資料を基に説明があった。前年度と比べて減収となっているが、これは会員数の減少と電子化による冊子の販売および広告収入の減少である。しかし支出も減少しているので、単年度としての収支はプラスとなることが報告された。

以上、審議の上承認された。

3. 2020 年度業務委託契約（資料 3）

山崎会長より国際文献社との業務委託契約の変更について報告があった。変更の主な点は手続きの簡素化であること、また新たに契約金額算定基準書に加わった「登記用住所提供」については、現在まではご厚意で無料であったが、会計が黒字に転じてきているので加えることが説明された。

以上、審議の上承認された。

4. 2020 年度事業計画（資料 4）

佐藤常務委員長より資料を基に説明があり、承認された。

5. 2020年度予算（資料5）

伊藤会計委員より資料を基に説明があった。2019年度の予算額に2018年度の予算額が入っているので2018年度の決算をベースに訂正をする。会員数には未払いの会員も入っているので多く見えるが、実質は減少しているとの説明があった。河野副会長より昨年の予算と今年の予算を比べることも必要なので、このままで良いのではないかとの意見が出された。伊藤会計委員より、前年度実績を予算額とするが推移が分かるような記載方法を検討するとの回答があった。志々目幹事より、本来予算は前年度の実績で立てるものではなく、事業計画で必要な額から割り出すものであるもので以後検討してはどうかとの意見が出された。

以上、審議の上承認された。

6. 2019年度日本粘土学会学会賞等選考結果（資料6）

川俣選考委員長より資料を基に報告があり、中戸晃之会員の所属を訂正後承認された。

7. 2019年度日本粘土学会学術振興賞選考結果（資料7）

佐藤常務委員長より黒田選考委員長からの資料に基づき説明があった。例年は2名であるが、3名推薦したいとの申し出に対して審議のち、3名が承認された。

8. 2019年度総会議案及び表彰式（資料8）

佐藤常務委員長より資料を基に説明があった。平成30年度を2019年度、委任状送付先のFAX番号を訂正後、承認された。

9. 一般社団法人日本粘土学会粘土科学投稿規定の改定について（資料9）

日比野編集委員長より資料を基に説明があり、承認された。

10. 粘土科学討論会（当日配布資料）

(1) 第63回粘土科学討論会実施計画

小口実行委員長より資料をもとに説明があった。プログラムは演者からの修正依頼などがありまだ確定ではないこと、また座長は早急に依頼するとの説明があった。見学会は現在20名ほどの申し込みがあり、実施の予定であることが報告された。山崎会長より昨年の経験から講演題目や演者の変更が多いので、プログラムの編成に当たっては要旨をもとに作成するといったアドバイスのあった。手束理事より特別企画に関して説明があり、パネリストをしていただける企業の方を推薦して欲しいとの要望があった。

(2) 第63回粘土科学討論会シンポジウム実施計画

田村企画委員長より資料の通りに進行している旨が報告された。

(3) 第64回粘土科学討論会

山崎会長より、第64回は樽田誠一実行委員長のもとで計画が進んでおり、信州大学で2020年9月第2週に行われる予定であることが報告された。

以上、審議の上承認された。

11. 会費未納者に対する対応について（資料10）

伊藤会計委員より資料を基に説明があった。未納が2年以上になると催促をしても支払い率が大幅に減となるので、2年以上は登録抹消とし、2年未満の会員に対しては、次回の請求

の時にその旨を通知するという提案がなされた。「登録抹消」か「会員資格喪失」かの議論があり、「登録抹消」とし、再入会を希望した場合は未納分の支払いを求めるが、他のペナルティーは科さないこととした。亀島理事より本件について会員全体への周知について質問があった。伊藤会計委員より、個人宛には通知済であるが、総会時に全体にアナウンスするとの回答があった。

以上、審議の上承認された。

1 2. 海外からの送金について（資料 11）

伊藤会計委員より資料を基に説明があった。海外からの投稿料が手数料を引いて振り込まれ、学会として減収となるのが問題となっている。また海外からの投稿に対して確実に投稿料を回収する方法を編集委員会で検討して欲しいとの要望があった。蛭名編集委員長より、海外の投稿に関しては掲載同意書に支払いの件を明記し、振り込み後に掲載決定書を出す旨の提案があった。利便性を考えてクレジットカードでの支払いを初めてはどうかという提案があり、手数料があるので投稿料の引き上げが必要となるが、前向きに検討をすることとなった。以上、審議の上承認された。

1 3. その他

山崎会長より財政がきびしいので会費の値上げが必要との見解が示された。さらに学術振興基金は ICC などの利益でまかなっていたが、現在は入金がない。規則として入金の仕組みを作る必要がある。会費を 9000 円、基金への入金は討論会の黒字分、学会での講演会での黒字分を組み入れたいとの提案があり、以下の様な意見が出された。

- 1) 会費をあげた効果を試算する必要がある。基金へ全部入れると本体はだいじょうぶか。
- 2) 現在は討論会の黒字で成り立っているので全額は無謀。

これらに関して山崎会長より、基金へは必要な額を入れるつもりであることが示された。

- 3) 会議を減らして削減。理事を減らす。選挙はお金がかかるので検討する。
- 4) 年会費相当の余剰金は貯蓄しておく必要がある。
- 5) 法人化や電子化の時のように何年か一度には大きなお金が必要なことがあるので、収入について考える必要がある。
- 6) 会費値上げによる会員減のシュミレーションが必要ではないか。
- 7) 広告費など収入が減っているところを精査したほうがよいのではないか。
- 8) 今回の総会でアナウンスをして、会員からの意見をきいてはどうか。

審議の結果、今年度の総会で本件について提案をすることが承認された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、会長及び監事がこれに記名押印する。

令和元年 月 日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

代表理事（会長） 山崎 淳司 ㊟

代表理事（副会長） 河野元治 ⑩

監 事 月村勝宏 ⑩

監 事 志々目正高 ⑩